

海外邦人安全対策情報（2020年10月－12月）

（在ニュージーランド大使館管轄地域）

1 ニュージーランド（NZ）国内全体の治安情勢

（1）テロ関係

2019年3月15日、クライストチャーチに所在する2か所のモスクで銃の乱射事件が発生し、51人が死亡、数十人が負傷しました。実行犯として逮捕されたオーストラリア国籍の男は、白人至上主義を主張する過激思想の持ち主で、逮捕時に軍用半自動小銃等を所持していました。事件後、NZ政府は銃規制を強化するなどテロ防止に向けた対策を推進していますが、国内には依然として多くの猟銃等が流通しており、引き続き、テロに対する警戒が必要です。

（2）一般治安関係

NZでは、強盗や侵入窃盗、車上狙いや繁華街での暴行事件が、日本と比べると多く発生しているため、防犯対策には十分な注意が必要です。また、犯罪組織（いわゆるギャング）の抗争もしばしば勃発しており、これらに巻き込まれることのないよう、繁華街等では特に注意してください。このほか、NZ国内ではメタンフェタミン等の薬物犯罪が社会問題化していますので、留意してください。

2 犯罪の傾向

（1）犯罪の発生状況

2019年中のNZ国内における人口1万人当たりの強盗事件（Aggravated Robbery）の発生率は、日本と比べ40倍以上であることから十分な注意が必要です。最近では、若者によるタバコ等を狙った強盗事件も多発しています。特に夜間や早朝、人気の少ないコンビニエンスストアやガソリンスタンドを利用する際には、事件に巻き込まれないよう周囲の状況に注意してください。

（2）注意すべき犯罪と対策

何事においても、被害に遭わないためには、警戒心を持ち、周囲の変化に気を配ることが大切です。日常生活において、心配のあまり過剰に反応し過ぎる必要はありませんが、いざという時のため、普段の生活の中で様々なケースを想定しておく、実際の事件に遭遇したときにもパニックに陥らずに対処できる可能性が高まります。

ア 窃盗・強盗

特に侵入窃盗（空き巣など）や車上狙い、置引きに注意してください。必要に応じて、自宅に防犯用のセンサーやカメラを設置したり、貴重品やバッグを車内に放置しないようにするなど、日頃から自身の防犯意識を高めてください。また、貴重品のシリアル番号等を控えておくなど、被害に遭った際の対策もご検討ください。

また、夜間はもちろん、昼間や夕暮れでも、人通りの少ない場所での独り歩きは避けましょう。自分の身は自分で守るという意識を持って行動することが大切です。

イ 暴行・傷害

NZ人は温厚な性格と言われますが、繁華街では飲酒がらみの暴行・傷害事件も発生しています。泥酔して気が荒くなっている人を見かけたときには、相手をジロジロと見ないよう気を付けながらも、その人に不意を突かれないように留意してください。

ウ 薬物犯罪

NZでも覚醒剤（メタンフェタミン等）の乱用が社会問題となっています。繁華街の路上や深夜のバー、ナイトクラブ等で知らない人に声を掛けられても、絶対に薬物に手を出さないでください。犯罪組織などの収入源にもなっているため、NZ警察は薬物犯罪を厳しく取り締まっています。

（３）在ニュージーランド大使館管轄地域における最近の犯罪

- ア 10月31日の未明、ネルソンで、22歳の男性が2人組の男から暴行を受け、顔に重傷を負った。その後、警察は容疑者として3人の未成年を逮捕した。
- イ 11月中旬、ローワーハットのショッピングモール付近で、男児が自転車に乗っていたところ、若者グループが男児の頭部を蹴り、カッターナイフを見せて脅すなどした。
- ウ 11月26日の午前、ウェリントン・ハイスクールに対するSNS上での襲撃予告があったとして、同校は約1時間程度のロックダウン措置を講じた（実際の襲撃はなし）。犯人の少年は既に起訴されており、この少年は白人至上主義に関する写真等をSNSに投稿していたとの報道もある。
- エ 12月19日午前3時15分頃、ウェリントンのディクソンストリートで、男性が殴られるなどの暴行を受けた。

（４）邦人が巻き込まれた事件・事故

なし

3 テロ・爆弾事件発生状況

冒頭「1（1）テロ関係」のとおり。

4 日本企業の安全に関する諸問題

特に認知されていません。